

法音寺物語

ほうおんじものがたり

(下)

げ

慈悲深く堪忍強く守りなば  
至誠の道もひとり渡れむ

杉山辰子

すぎやま たつこ



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲しき——鈴木修学

我の全言

聖なること  
無からしめんと

昭和廿一年二月若祥日  
暮山院日蓮上人

「舍利弗、当に知るべし。我本誓願を立てて一切の衆をして、我が如く等しくして異なること無からしめんと欲しき。我が昔の所願の如き、今者已に満足しぬ」（妙法蓮華經・方便品第二）  
舍利弗よ、自分は仏陀伽耶において修行し、人生の深い意味を覚った。そして世間に出て教えを説いたが、その教えを説く初めから、是非自分が一生涯必ず成し遂げたいと誓願を立てた。その誓願は、一切衆生

を教え導いて、自分と少しも変わらない仏にしてゆきたい、という願いである。\*（妙法蓮華經略義・116頁）  
キリスト教では、「人間と神さまは別もので、人間は神さまにはなれない。イエスさまと同じにはなれない。いつまでたっても人間は人間だ。一番偉くなったら天国に生まれ神さまのお傍に侍り得る者にはなるだろうけれども、神さまにはなれない」と言っています。  
論語には「上知と下愚は移らず」と言っています。「一番上の知恵のある者と、一番下の愚かな者とは代えられない。一番上の者は本当に偉い者で、一番下の者は駄目だ」と言うのです。然るに仏さまは、一段と超越していられます。  
世の中にはいろいろな人がいるけれど、すべての人を等しく『自分と同じ仏にしてやろう』それが自分の理想である。  
とおっしゃるのであります。これは実に驚くべきことであり、実に広大無辺な大慈悲であると感じるものであります。私はそれ以来、宗教の王であることを感じ、すべてを打ち込む考えになった次第です。

この大慈悲を考えます時、第一に、自分を軽んじてはならぬ、ということ。そして第二には、怒ったり、愚痴を言つてばかりのどんな思知らずの者でも、仏に成れる者だ。自分もつと骨折つてやらねばならぬ。自分の努力にまだ欠けたところがある。もう一番発しよう、という心持が起こつてくるのであります。母親が、自分の子どもが重病の時、我が命に代えても子どもを病を治したい、と、神さまや仏さまに祈る心と同じであつて、これが大慈悲の心であります。仏さまは、  
自分昔から一切の人々を皆、我が子と思ひ、皆仏にしたいことを願つていたが、今ここで本当の心持である仏になる教え、法華經を説き聞かせることができて、その願望が満足したのである。これは、自分が一生涯の精神を明かしたものであるから、このことがすべての人に解りさえすれば、皆仏に成れるのだ。  
とおっしゃるのであります。本当に味わうべき偈であると思ひます。  
※妙法蓮華經略義・御開山上人著 青山書院刊  
（御開山上人御遺稿集・平成11年6月、法音寺刊）

一人から始まる  
今日一日から始まる



昭和二十一年十一月十日

日蓮宗にて得度

僧侶となった修一郎は修学と改名し  
新しい道を進むことになりました

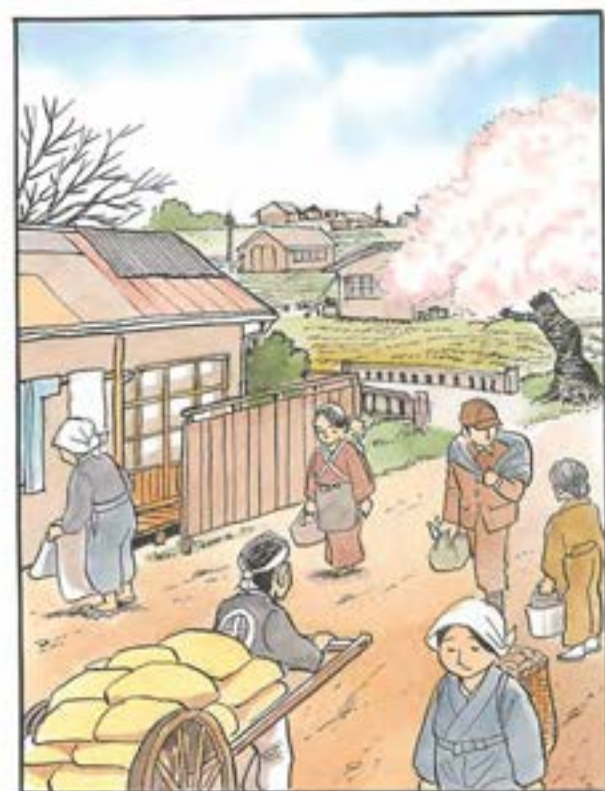


第一章 だいいっしやう

三徳再開 さんとくさいかい



昭和二十二年、春









# 日蓮宗昭徳教會開堂式々場

皆さん！  
こうして皆さんの前で  
お話してやることを  
本当にうれしく  
思います

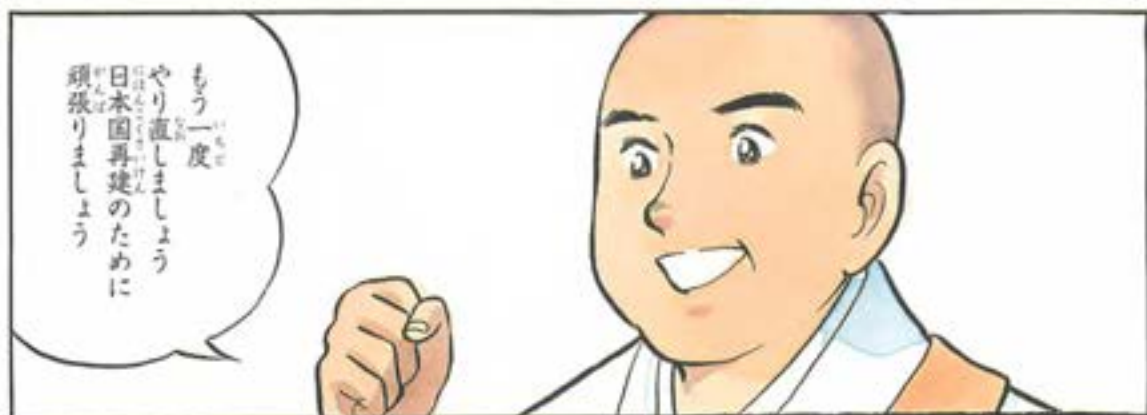
再び、自由に  
三徳の御教えを  
信仰できるのです

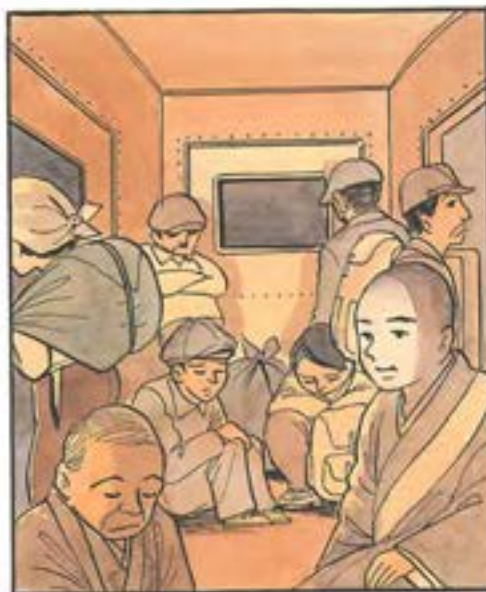



戦争は終わりました  
しかし至る所荒廃し  
村にも町にも戦傷者  
浮浪者があふれ  
国民の心もすさんでいます  
いったい日本はどうなる  
のでしょう

今こそ法華経  
杉山先生の三徳の御教えが  
必要なのです











私はいつも杉山先生から  
教わってきたことを  
思い出して  
皆さんにお話しさせて  
いただいているのです



私どもは毎日  
嫌われて暮らすよりも  
喜ばれて暮らしたい  
ものです

でも  
「憎まれっ子世にはばかると  
いって、長生きできるから  
いいじゃないか」という人が  
ありますが、罪ばかり  
作る一生ならば長生き  
したってばからしいことです



いいことを一生懸命  
やってゆけば、たとえ  
いまわの際に  
立たされたとしても  
「ああ、今日一日  
ありがたかった  
明日は死んだとしても  
もう一日お題目を唱えて  
喜びましょう」

そう思えるように  
必ずなります！  
その喜びが未来際と  
いって、ザッと  
未来まで続いて  
ゆくのです



それが本當の  
法華經の功徳  
なのです



明日や明後日  
来年のことは、今は  
考えなくていいんです

「今日一日は」という  
心掛けて、みんなを  
喜ばせてゆこう  
そしてみんな一緒に  
無上道へゆこうと  
いうことになりましたれば  
大変結構だと  
思うのであります



子どもたちが  
大勢持って  
いますからね

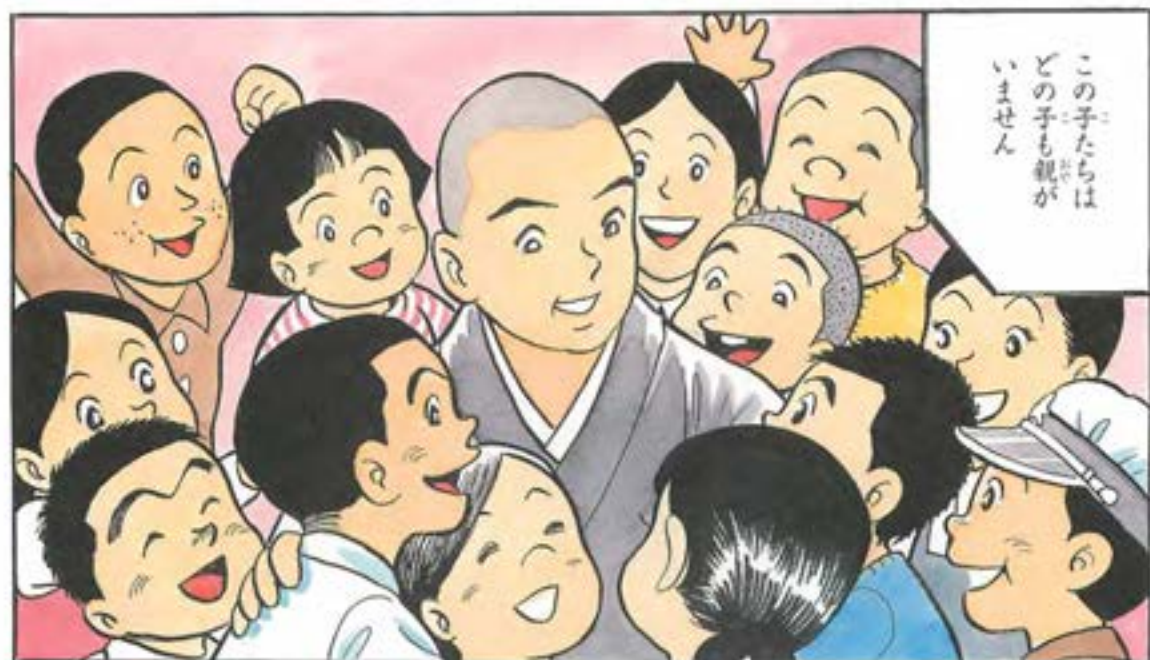


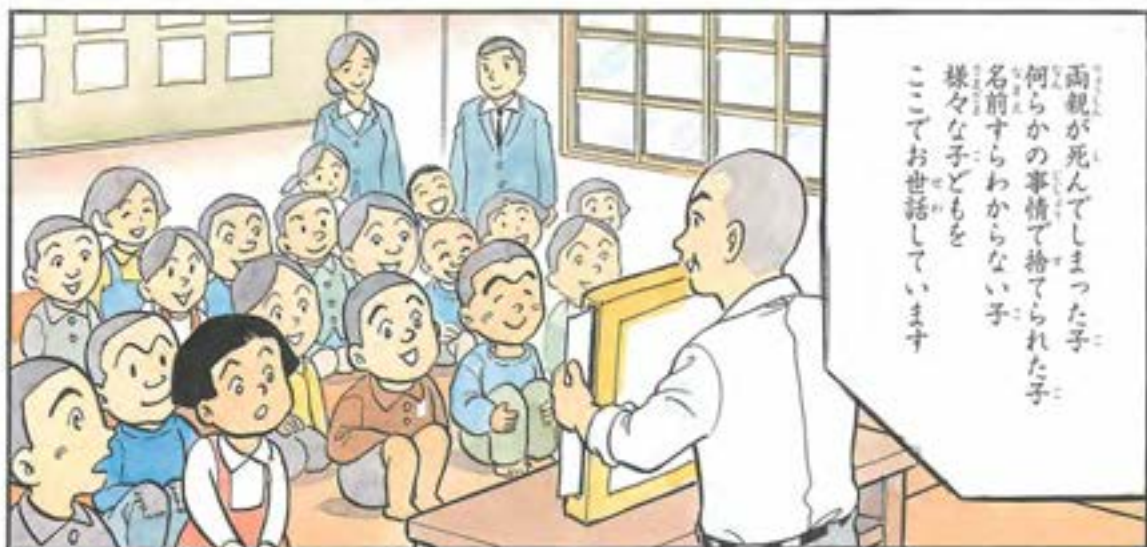
お上人さま！  
今晚くらいお泊り  
下されば、いかかです？

そうさせて  
いただきますのですが  
明朝には名古屋に  
もどらねばならんです



汽車の中では  
布教資料の執筆に  
余金がなかった











昭徳会と  
いうと  
鈴木修先生  
の所ですね！



えっ！  
心あたりが  
おありですか？

はい！  
昭徳会という  
グループなんです



杉田直樹博士は  
名古屋大学の教授で  
精神医学の権威でした

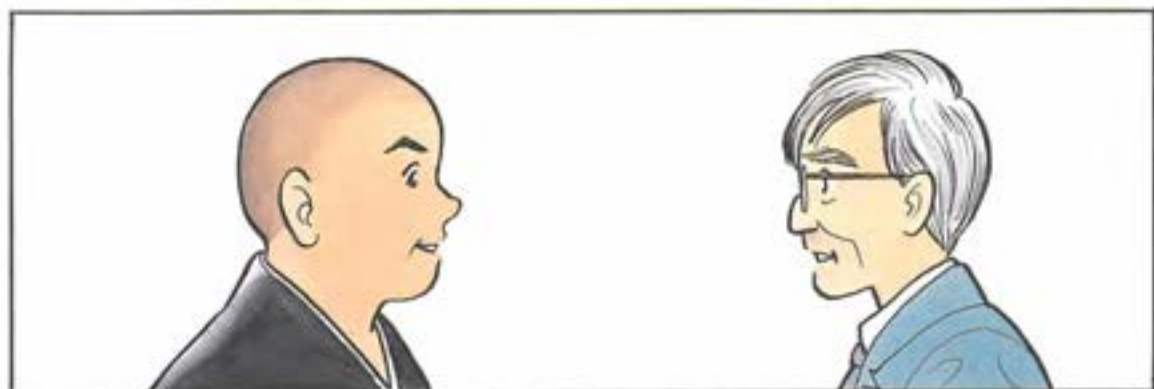
昭和十年前後  
「嗜眠性脳炎」が大流行し  
後遺症から障害児が  
多く出たことから杉田博士は  
私財を投じ、自宅を開放して  
幼児から十八歳まで約三十名の  
障害児と共に暮らし、治療と  
保護・育成にあたっていたのです



それが  
「八事少年寮」です

昭和十二年四月に  
スタートし  
日本では戦前  
唯一の知的障害児の  
施設でした





昭和二十四年八月  
八事少年寮は  
財団法人昭徳会の  
経営となりました

今までの施設をそのまま  
引き継ぐのではなく  
周りの土地を買い増して  
規模を大きくし  
知能と年齢に応じて  
手芸や編み物、木工作業など  
技術習得をも  
指導しようと思いました



皆さん、重度の子は  
自分の身のまわりの始末も  
できないのです

同じ人の子として  
生まれながら…  
全くかわいそうですよ



きのうより  
ずいぶん  
こぼさなく  
なったな  
えらいぞ

この子たちの行く末は  
どうなるかと思うと  
じつとしておられません





でも、この子ら一人一人に  
一つのことを  
根気よく教えてみると  
それぞれの子に特徴が  
あって、思いのほか  
上手に作業をする子が  
いることもわかりました

その子、その子の  
持つ長所をうまく  
活かしてやりたい！



どんな子にも  
できる限り、普通の  
人生を送らせて  
あげたい！  
家庭も持たせて  
あげたいのです



お父さんの  
紙芝居が  
始まる  
よおう

この子どもたちも  
今までの子どもたちと同様  
みんな「わが子」として  
お世話する  
ことになりました









しかし実際のところは  
保母さんたちでは  
手におえない子どもも  
います

盗みぐせのある子  
暴力をふるう子  
手短でウソをつく子  
いろいろな子どもがいます



しかし彼らが  
すべて悪い  
わけでは  
ありません

戦後の貧しい時代  
戦災で親も家もなくした子、捨てられて  
親どころか生まれた所もわからず  
名前すらない子、サーカスに売られ  
大人からひどい仕打ちを受けた子  
彼らにとつて  
盗み、暴力、ウソなどは  
生きる術であったのでしよう





子どもたちに  
深い愛情をもち、日常生活に  
必要な知識や技能を  
正しく教えられる人  
障害のある子にも真の愛情を  
注げる人  
これからの時代  
施設を動かして、子どもたちを  
本来の幸せに導くためには  
そのような専門知識をもつ  
高い訓練と教育を  
受けた人が大勢必要だ。



昭和二十四年十一月  
全国社会事業大会で  
表彰していただき  
高陛下に拝謁できました

社会事業は世の中の人の理解と援助がなければ完全な事業はできません

世の中の人々が私どもに事業をさせて下さるので常に感謝しております子どもたちを良い人に育てあげてその責任を全うしたいと念じております

この度、厚生大臣から功勞者として表彰して頂きましたがこれは杉山先生の御教えを実践してきた一つの結果にすぎません

本當に自分がやるべき仕事自分がやらねばならない仕事はあくまでも仏さまの教えを実践し人々を善道に導くこと杉山先生から教えられたことをより多くの人に伝え広めてゆくことなのです

しかし私一人の力では  
いくら頑張っても  
たかがしれている

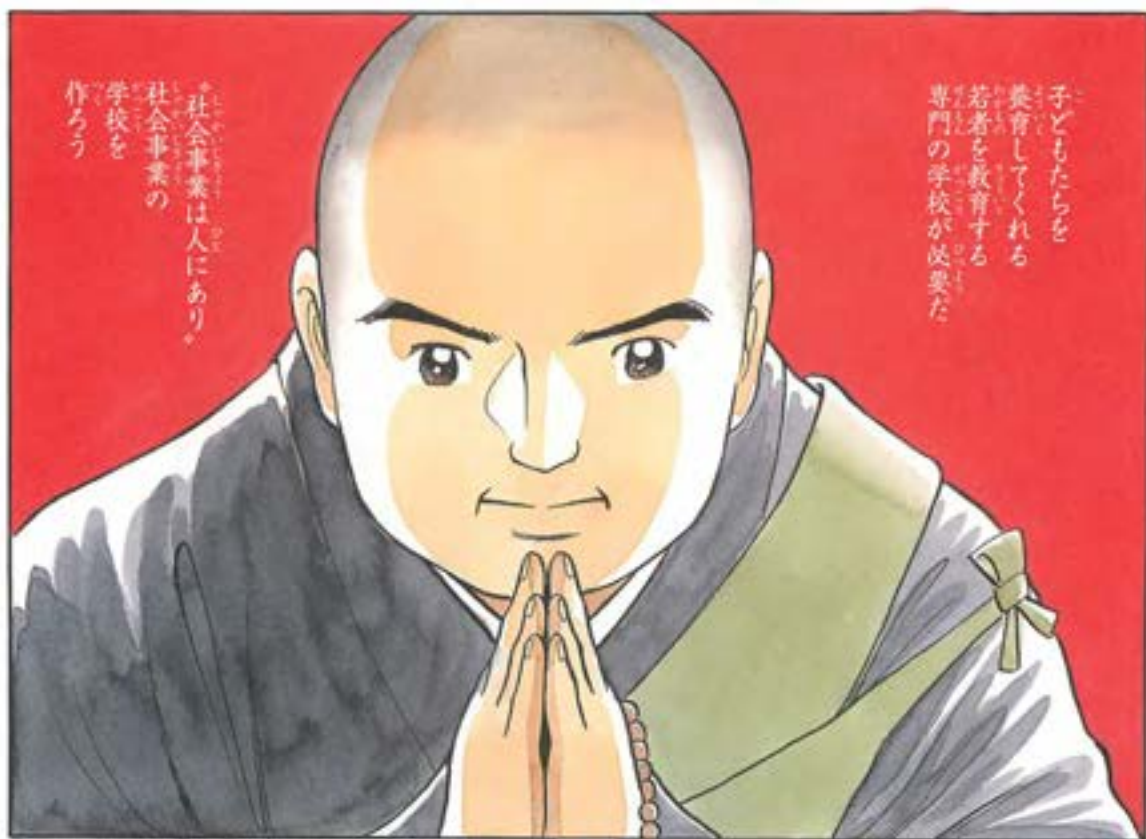


何とか仏さまのお心を  
引き継いでいってくれる  
若い人を育てたいものだ



子どもたちを  
養育してあげる  
若者を教育する  
専門の学校が必要だ

社会事業は人にあり、  
社会事業の  
学校を  
作ろう





そうです  
子どもたちを  
養育してくれる若者を  
教育する大学です

え?

.....



収容し、食べさせて  
おけばいいという  
時代ではなくなった  
のです

今の日本は  
戦災から復興  
しつつあります  
しかし  
本当の社会事業  
心の通った救済活動は  
お金や形で解決  
されるものではありません



新しい科学的知識と  
人類愛に満ちた人材の  
育成が  
必要なのです

子どもたちを健やかに育て  
正しく導き  
本当の幸せにするためには  
この子どもたちの本当の味方  
本当の指導者が  
必要なのです

今にきつと  
日本は完全に復興し  
福祉が最も重要とされる  
時代が必ず来ます  
それからは遅いのです

専門学校は  
東京と大阪にしか  
ありません  
ここ中部にも今こそ  
必要なのです



物資不足や交通の不便などの多くの困難のただ中にありながら、社会事業大学設立の決意を胸に秘め、戦時中の空白を少しでも埋めようと、怒涛の如き修学の広宣流布の旗が始まった



お上人さま  
私どものところは  
まだ五、六人しか  
集まりませんが  
ついでの折にでも  
お立ち寄りいただいて  
お話をおきかせ  
いただけませんか  
でしょうか？



ああ  
いいよ！

私はね  
たとえ一人でも  
私の話がききたいと  
いう人がいれば、どこにでも  
喜んで行きますよ







修学の  
三徳宣布にかける熱い思いに  
最初に修学の弟子となったのは  
二人の息子であった



昭和二十二年十二月十二日  
忠臣（宗音 現・山首上人）十八歳  
宗保は十六歳であった

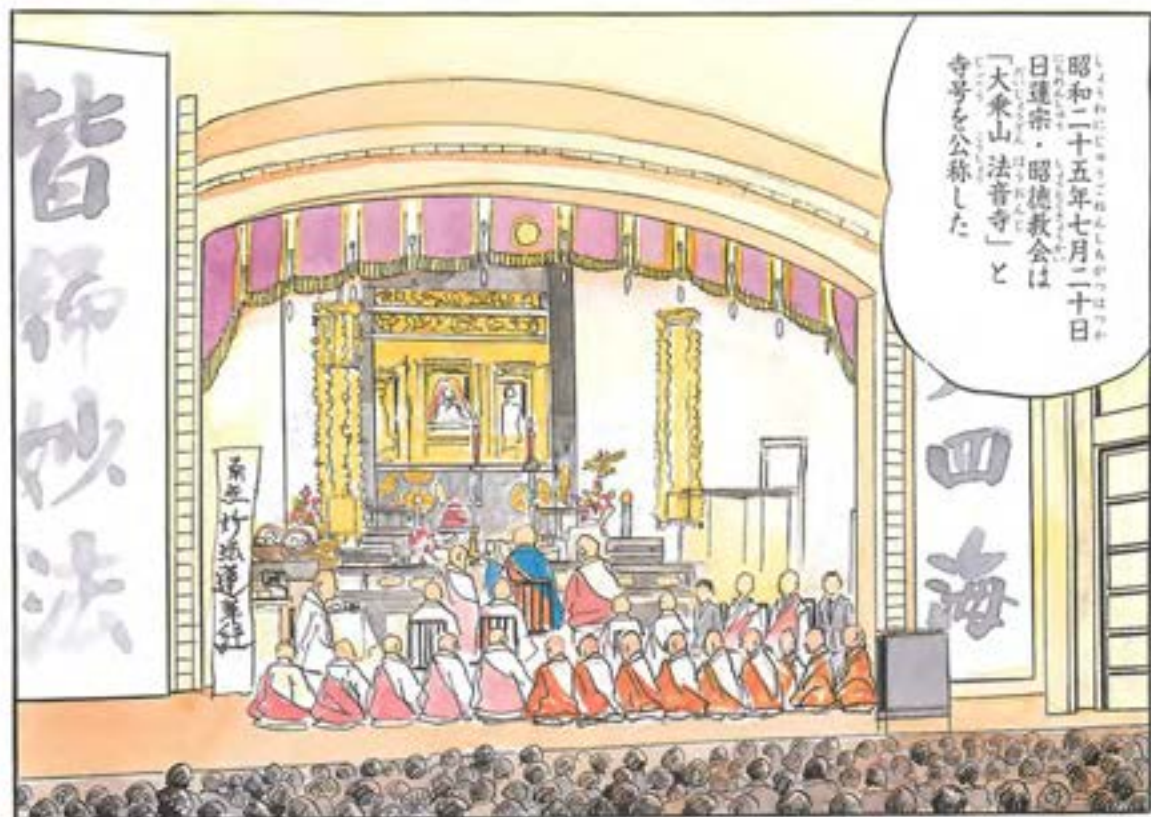
さらに  
昭和二十四年六月十日  
鈴木芳蔵（慈学・修学の叔父）  
祖父江つな（妙綱）らが  
得度し  
布教の上で  
強力な柱ができた



寺院、教会は以後次々に  
開設され、昭和二十二年から  
三十六年にかけて二十四もの  
寺院、教会、結社が誕生

僧侶となって修学を  
支える人も三十名  
近く育つていった









しかし戦時中の「法難」を契機として支部は消滅し人々は散り散りになって「三徳の火」は消えかけていた

あの頃、信仰を共にした東京の人たちはどうしているのだろうか……

東京に確固たる布教の拠点を築くことは切なる願いであった



修学はその二人に東京支部を託すことにした。そして、二人の育成にも努力を惜まなかった。彼らもよくそれに応えた。



ちやうどその頃、広島地方で熱心に三徳を信仰していた女性が同じ信仰仲間の青年と結婚。二人は仕事の関係で東京に移り住むこととなった。



地方で妙法を聞き、東京に転居していた人、東京に勉強に出てきた信者の子女、田舎の親戚からすすめられて来た人など、いろいろな人が集まり、念願の間東布教はこの二人を中心にして再開された。